

となりにいるよ

2022.10
VOL.36

どんぐりの木
常務理事 児玉 克己

中央有鄰学院の敷地の片隅に小さな雑木林があり、どんぐりの木が雑木林にやって来たのは8年前。前理事長が山で拾った実から育てたという、針金のように細く、10センチほどの見るからに弱々しい苗木を持ってきたことから始まりました。

「枯れてもしらないよ」と言いつつ雑木林の隙間に植え付け、草取り、水やりを続け、今や、そのどんぐりの木の幹は両手を使わなければ掴む事が出来なくなり、高さは6・7メートルにも達しています。いつになったら実を付けるのかと、ここ数年見ていたのですが、ようやく今年待ちに待った実が付いたのです。

前理事長は、“どんぐり駒、どんぐりで造ったやじろべえ”が大好きで、彼の引き出しの中にはいつも錐と竹串が入っていたのを思い出します。

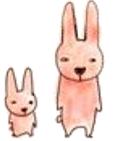
「桃栗三年柿八年、柚の馬鹿野郎十八年」
実のなる木は時間が掛かるようです。ようやくどんぐりの実が落ち始め、これから毎年どんぐりの木は子ども達にその恵みを与えてくれます。その恵みをどの様に使うか、大人達に宿題を与えてくれている様にも思います。



この夏は、お部屋で隔離になることも
ありましたが、特定の大人との関係性の
大切さを改めて感じる事ができました。
コロナ禍でしたが、招待行事をはじめ
レゴランド・夏祭り・キャンプ等に行き、
たくさんの夏の思い出を作りました。

小規模児童養護施設

かえで



夏休みは、かえでの子ども全員でキャンプに行きました。野外で焚火をしながら星空を見て、マシユマロを焼いて海岸で花火をすることもでき、夏の良い思い出になりました。

またレゴランドに行ったり、ケーキ作りをしたりと楽しい思い出をみんなで作ることができました。

「あのときはこんな事があったね」「〇〇ではこんなことしたよね」等子どもと一緒に思い出を共有する時間を嬉しく思います。来年の夏も、その先も、子どもたちとたくさん思い出を作っていきたいです。



小規模児童養護施設

けやき



今年の夏は、2年ぶりに福井県へキャンプへ行きました。あいにくの豪雨となってしまいましたが、それもまた一つの思い出となりました。ミ.コロナのなかでも夜には星空観察のため公園へ行ったり、手持ち花火をしたり、BBQをしたりと日々の生活のなかに楽しみを見つけることができました。

小規模児童養護施設

あおい



今年の夏休みは、福井県にキャンプに行ってきました！久しぶりのキレイな海で、子どもたちもたくさん泳ぎました。夜釣りをしたり、花火をしたりと、大人も子どもも一緒になって楽しんだ一泊二日でした。本園での夏祭りにも参加し、浴衣を着たり、屋台でご飯を食べたりと夏の風物詩を味わいました。

お部屋の中でもコロナが流行りましたが、今ではみんな元気に過ごしています！

最近お部屋でプランター菜園も始めました。種を植えて芽を出すまで「まだかなまだかな」と毎日眺めたり、咲き始めると大きく喜んだり、大切にお世話している姿が見られます。収穫してお部屋で食べるのが楽しみです。



小規模児童養護施設

ゆう



5月1日から『ゆう』での新たな生活が始まりました。

ご近所への挨拶を子どもたちと周り、「うちの子と同一年だね。これからよろしくね。」と暖かく迎え入れてくださった方がたくさんいてくださり、とても心強く小規模での生活を始めることが出来ました。

近所にゆうの小学1年生と同じクラスの子が何人もいると驚きの出来事もありました。帰ってきてすぐに、「友達にニジイロクワガタ見せてもらってくる！」と友達にお呼ばれして挨拶しに行くこともあり、ご近所付き合いの醍醐味だなと感じています。

小規模での新しい生活を職員も子どもたちと一緒に楽しんでいき、地域との繋がりも大切に、日々の生活を送っていきたいと思えます。



「はなび キラキラしてたね☆」
 「すいか パカーンしたね!」
 「夏のおもい出をお話する声が
 聞こえてきます
 みんなでいっしょに過ごすことが
 できない日もあったけれど
 それぞれに「特別」で「個別」な
 時間がたくさんありましたね
 今年も子どもたちの笑顔が
 キラキラ輝く夏になりました



ほだか



昨年の10月に開所以来、相談・育児支援事業をはじめ、各種研修・サロン・交流事業、啓発活動に至るまで、幅広い事業を展開してきましたが、7月から里親登録希望者には、ほだかの里のガイダンスを受講していただくこととなり、その果たすべき役割や責任も着実に大きなものとなっております。

また、里親の皆さんにより親しみを持ってもらえるよう、リーフレットやホームページのデザインも一新しました。「さとカフェ」も、毎週月曜日にOPENしていますので、お気軽にお立ち寄りください。



ほだかの里で採れた野菜やトウモロコシをほだかやゆうりんの子もたちと一緒に楽しみました。

里親家庭支援センター ほだかの里



ふれあいセンターおあだか



自立援助ホーム



厨房



毎年7月中旬から8月末にかけて、プール遊びを行っています。コロナの感染が広まった時期でもありましたが、感染対策をしながら過ごした夏となりました。

この夏は、好天気が続かず、空を見上げながらプール遊びができたか否かを判断する事が多かったように思います。でも、プールを楽しみに、お子さんもお母さんも毎日笑顔で来てくれました。また、カブトムシの成虫をいただき、小さな子ども達は、出会うことも手にすることもない生きものと接する良い機会でした。興味津々で覗き込む姿や取り出して見せると逃げていく子などハラハラ、ドキドキの時間も体験しまし



た。

来年4月に入園を控えている親子にとっては幼稚園の面接の時期でもあり、結果がでるまではハラハラドキドキでした。皆さん希望の園に入園が決まりほつとされているようです。

先輩ママから話を聞いたり、それを先輩ママに伝えたりと、ふれあいセンターは、情報交換の場にもなっていますし、今年生まれたお子さんが支援センターデビューされる等、新しい利用者の方も増えています。

きょうわは、成人前後の年齢の子が多いので、一人ひとり生活リズムが違いますが、みんなで楽しめるようにと季節行事や誕生会以外にも不定期に自由参加のイベントを企画しています。

今年の夏は、とある児童から手持ち花火をしたいとリクエストを受けました。夏らしいイベントの要望に善は急げということで職員も集まって手持ち花火大会を急遽開催することに。最初は児童たちも様子見をしていましたが、花火の準備を終えた職員が呼びかけると一人、二人と集まり始め、最終的には五名の児童が花火を手楽しんでいました。

いつもイベントに乗り気な子が、場を盛り上げてくれましたし、写真撮影が得意な子は、線香花火を美しく撮って職員に自慢げに見せてくれました。さらに、普段はあまり他の子と交流しない子も顔を出し、集団から少し離れたつっ、しかしみんなを意識しながらシャボン玉や花火でマイペースに遊ぶ姿もあり、夏の暑さも忘れるような素敵な夜となりました。

きょうわに入所する児童の中には家族との繋がりが薄く、家庭の中で行事を楽しんだ経験がないという子も少なくありません。きょうわに入所したことで職員や他の児童と楽しい思い出を共有できたと感じてくれれば、という一心でイベントを実現させる機会を狙っております。



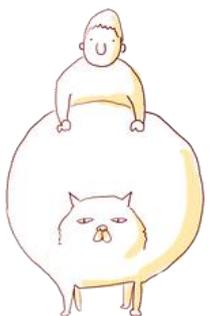
ゆうりんでは、平日は毎日それぞれの小舎で厨房職員が夕食を作っていますが、現在は新型コロナウイルスの感染を防ぐため、調理のみ行うことにしています。

流行前、部屋中の椅子を集めて皆で「いただきます！」と食べていたのを懐かしく思うほど数年が経ち、食事を作る人との距離が離れてしまったことを課題に感じていました。しかし、子どもたちの食事の好みや希望を聞くために毎年行っている嗜好調査で、「いつもおいしいご飯を作ってくれてありがとう」「たくさん作るの大変だね」「小舎でクッキー作りをしてはどうか」等、以前は少なかった作る人への思いややるコメントや、調理に対しての前向きな意見が多く嬉しかったです。

子どもたちの目の前で食事を作ることは、人がたくさん必要で効率が悪いです。が、続けてきてよかったのだと思います。今後もコロナ対策は必須ですが、その中でもできる事を見つけて食育を行い、心も体も健康に、のびのびと育つてほしいと願っています。

アニマルセラピーのちから

ゆうりん 南原 和樹



アニマルセラピーは、動物を介し人との関係性を構築すること。また、自分たちよりもさらに弱い存在である生きものたちと触れ合うことで、思いやる心や愛する心を育てたり感受性を高め、豊かな人間性を育てること等を目的として実施しています。



ゆうりんでは、アニマルセラピーを月に2回程実施しており、「触れ合う」「抱っこする」「散歩する」「エサをあげる」等、生きものと直接関わることで、その反応や、自身の気持ちの変化を感じてもらっています。

アニマルセラピーは、子どもたちが、ただ動物に触れて楽しむだけのものではないので、生きものと関わることで生み出される感情を大事にして伸ばしてあげられるよう意識しています。職員も

一緒に外に出て、子どもと動物を触ったり、「抱っこするとあたたかいね」「優しくしてくれてありがとう」と声をかけ、一緒になって生きものに接する経験を大切に行っています。

特にここ2、3年ほどは、外出が困難な状況での癒しの一つとしても機能しています。お世話の仕方や丁寧な扱い方について学ぶ良い機会になり、飼育に興味を持ち、ハムスターを飼育し始める子もいました。生きものを飼うことで心の安定に繋がり、また命の尊さを学び、丁寧にお世話を重ねることで、思いやりの心を持つ姿が見られるようになったと思います。

昨年からは、カブトムシを飼育し始めたのですが、今年の夏も、引き続き職員と一緒にカブトムシの飼育に取り組みました。目標は、オスとメスを2匹ずつ飼育し、夏休みを越すことです。職員も一緒に世話をを行うことで、子ども自身も「水あげる時間だよ」「エサの時間だよ」と責任を共有しながら飼育し、元気に生きていることを喜び合

うことが出来ました。

そして、8月下旬には卵が確認され、目標であった夏休みを無事に超すことが出来ました。9月初旬あたりで残り1匹になってしまいましたが、夏を越し卵も見られたため、目標達成とともに来年の楽しみを作ることが出来ました。

職員も一緒になって育ててきたことで、命の大切さや尊さを身近で共有することができましたし、「よく頑張つて育てたね」と話しかけた際には、その表情から、達成感や満足感のようなものが感じられました。生きものを飼育するということは、子どもたちの責任も大切ですが、大人も一緒になって命の大切さや尊さを考えながら飼育していく

ことがいかに大事なことかということを深く実感しています。

これからも、アニマルセラピーや飼育等とおして、大人と子どもが一緒になって、生きものに関わる喜びを共有しながら、かけがえのない経験を重ねていきたいと考えています。



職員紹介



ほだか 伊藤 紗英

Q 施設の栄養士になった理由は？

もともと子どもが好きだったのと、乳幼児期の食事の大切さを大学で勉強して、栄養士として子どもに関わる仕事がしたいと思っていました。就職先に保育園なども考えているときにたまたま求人を見つけて、乳児院や児童養護施設については全く知りませんでした。一日の全部の食事に関わることができることに魅力を感じて、ここだと思いました。私たちが作った食事を食べて大きくなっていったり、初めて食べる離乳食になったり、卒院していく子にとっては実家の味のようなものかなと思うと、とてもやりがいのある仕事だと感じながらいつもご飯を作っています。

Q 子どもとのエピソードを教えてください

ユニットでの調理が増えたので、私の顔と名前を覚えてくれて、通りかかると呼んでくれたり、食事の様子を見に行くと初めは緊張して固まっていた子が、「やっやっ」と茶碗を私に渡してくれたり、「こっちこっち」と隣に座るように呼んでくれたりするのがとてもうれしいです。普段の私と、エプロンを着て三角巾をかぶっている私がまだ一致していない子もいて、不思議そうな顔をされるのもまたすごくかわいいです。

Q 趣味は何ですか？

プロ野球を見るのが好きです。高校生

のときに家族でドームに観に行ったのがきっかけで、中継がある日はだいたい見えています。今はドラゴンズの高松選手を全力で応援しています！が、なぜか私がドームに観に行くときに限って試合に出てくれないので、来年はコロナが収まっていることを期待して、たくさん観に行こうと思っています！

Q 得意な料理は？

栄養士になろうと思う前はパティシエになりました。大学生のときもケーキを作るのが得意です。大学生のときもケーキを作るアルバイトをしていました。なので、ほだかの誕生日会やクリスマス会のおやつはつい気合が入ってしまいます！ほだかの子たちに喜んでもらいたいのはもちろんですが、私自身も楽しんで作らせてもらっています。

Q 最後にひとこと！

栄養士の仕事をさせてもらうようになってからはまだ2年目なのでまだまだ勉強中ですが、ほだかの子の食事は私に任せておけば安心、とほだかの職員さんや保護者の方に思ってもらえるように、これからもがんばります！



ゆうりん 奥野 真紗美

Q 簡単に自己紹介をお願いします。

自立援助ホームに4年、児童養護施設に6年、気が付けば10年、中央有鄰学院にいます。昨年度までは男子小舎を担当していました。今年度から連携職員となり、本園から小規模までいろんなお部屋の子どもたちと過ごすことが出来て楽しい毎日です。

Q 数年は、趣味でやっていたダンスを子ども達に教え、外部のイベントにも出演するようになりました。ダンスの日を楽しみにしてくれたり、どんどん上手になる子どもたちの姿に力をもらいながら、子ども達と一緒に沢山の経験をして、一緒に成長中です。

この数年は、趣味でやっていたダンスを子ども達に教え、外部のイベントにも出演するようになりました。ダンスの日を楽しみにしてくれたり、どんどん上手になる子どもたちの姿に力をもらいながら、子ども達と一緒に沢山の経験をして、一緒に成長中です。

Q 中央有鄰学院に入ったきっかけを教えてください。

大学生の時に所属していたダンスサークルで、ある児童養護施設のクリスマス会で踊る機会がありました。その時に児童養護施設という存在を知り、関心を持っていました。私が、職員が務まるだろうか、子ども達に伝えられることがあるだろうか、迷い、一度は普通の会社に就職しました。〇として誰でも出来るような事務職をこなす平凡な毎日の中で、私にしかできないことをしたいと思い、思い切ったこの世界に飛び込もうと決心したことがきっかけです。

Q 仕事でのモチベーションは何ですか？

子どもたちの成長を日々感じられることです。いろんな家庭、養育環境の中で生まれ育った子どもたちが、ゆうりんにきて様々な大人と関わる中で、できなかつたことができるようになっていく姿を近くで見

られることはとっても貴重な経験だと感じています。

子どもたちの日々の生活の中には、楽しいことだけでなく、時には喧嘩をしたり、嫌なこともあります。しかし、一生懸命向き合っている子ども達に寄り添い、何気なくこちらがかけた言葉を後から感謝された時にはとっても嬉しい気持ちになります。子ども達と何気ない会話をし、ただ笑っている時がとっても幸せだと感じています。

Q 仕事で心掛けていることは？

とにかく、楽しむことです。大人にだってちょっとしんどい日、憂鬱な日はあります。それでも、とにかく前向きに、嫌なことがあっても何とか楽しんで乗り越えていく姿を、身をもって子ども達に示したいと思っています。大人の行動を子どもたちは本当によく見ているので、責任重大です。

Q 最後にひとこと！

特にこの数年、子ども達にとっての施設生活とは何か、子どもたちの人生にとって施設での生活や施設職員はどんな存在になり得るのか、その可能性について考えることが増えました。「ゆうりん」で育って良かったな」と子ども達が大人になった時にふと思ってくれるといいなあ、そんなことを考えながら子どもたちの一日一日を大切に、成長に寄り添いながら、子ども達にとつてのより良い養育や福祉の在り方を追求し、知識もスキルも日々アップデートしていきたいと思っています。



勘定科目	法人本部	ゆうりん	ほだか	きょうわ	ヘルパーS	収益事業	合計
介護保険事業収入	0	0	0	0	24,419,073	0	24,419,073
児童福祉事業収入	0	374,478,729	222,812,444	44,287,479	0	0	641,578,652
借入金利息補助金収入	0	528,576	234,748	0	0	0	763,324
経常経費寄付金収入	2,197,000	3,517,548	430,871	1,264,481	0	0	7,409,900
受取利息配当金収入	658	249	1,740	36	58	79	2,820
その他の収入	9,000	7,931,488	8,196,341	647,322	0	0	16,784,151
生活事業収入	0	0	0	0	0	4,356,122	4,356,122
事業活動収入計	2,206,658	386,456,590	231,676,144	46,199,318	24,419,131	4,356,201	695,314,042
人件費支出	6,460,171	258,679,102	183,265,335	29,313,995	16,232,862	2,033,589	495,985,054
事業費支出	1,440,000	52,786,962	11,751,350	6,433,013	0	0	72,411,325
事務費支出	5,360,615	40,127,717	17,949,935	4,480,512	1,885,594	1,089,414	70,893,787
支払利息支出	146,191	661,192	275,097	0	0	0	1,082,480
その他の支出	0	0	0	0	0	0	0
事業活動支出計	13,406,977	352,254,973	213,241,717	40,227,520	18,118,456	3,123,003	640,372,646
事業活動資金収支差額	▲ 11,200,319	▲ 34,201,617	▲ 18,434,427	▲ 5,971,798	▲ 6,300,675	▲ 1,233,198	▲ 54,941,396
施設整備等補助金収入	0	6,700,800	1,865,600	0	0	0	8,566,400
施設整備等寄付金収入	1,819,000	0	0	0	0	0	1,819,000
設備資金借入金収入	0	0	0	0	0	0	0
固定資産売却収入	0	0	0	0	0	0	0
施設整備等収入計	1,819,000	6,700,800	1,865,600	0	0	0	10,385,400
設備資金借入金元金償還支出	1,092,000	8,376,000	2,332,000	0	0	0	11,800,000
固定資産取得支出	62,688,590	129,880	1,163,538	0	0	0	63,982,008
固定資産売却・廃棄支出	0	0	0	0	0	0	0
ファイナンスリース債務の返済支出	0	0	0	0	0	0	0
その他の施設整備等による支出	0	0	0	0	0	0	0
施設整備等支出計	63,780,590	8,505,880	3,495,538	0	0	0	75,782,008
施設整備等資金収支差額	▲ 61,961,590	▲ 1,805,080	▲ 1,629,938	0	0	0	▲ 65,396,608
長期運営資金借入金元金償還寄付金収入	0	0	0	0	0	0	0
積立資産取崩収入	0	334,800	897,450	0	0	0	1,232,250
拠点区分間繰入金収入	10,254,171	0	0	0	0	0	10,254,171
その他の活動による収入	0	0	0	0	0	0	0
その他の活動収入計	10,254,171	334,800	897,450	0	0	0	11,486,421
長期運営資金借入金元金償還支出	0	0	0	0	0	0	0
積立資産支出	0	0	14,000,000	0	0	0	14,000,000
拠点区分間繰入金支出	0	3,376,360	1,877,811	0	5,000,000	0	10,254,171
その他の活動による支出	0	0	0	0	0	0	0
その他の活動支出計	0	3,376,360	15,877,811	0	5,000,000	0	24,254,171
その他の活動資金収支差額	10,254,171	▲ 3,041,560	▲ 14,980,361	0	▲ 5,000,000	0	▲ 12,767,750
当期資金収支差額合計	▲ 62,907,738	▲ 29,354,977	▲ 1,824,128	5,971,798	1,300,675	1,233,198	▲ 23,222,962
前期末支払資金残高	87,333,560	39,076,283	49,718,551	2,728,549	6,660,189	8,264,847	193,781,979
当期末支払資金残高	24,425,822	68,431,260	51,542,679	8,700,347	7,960,864	9,498,045	170,559,017

「支援ありがとうプロジェクト」
令和4年4月1日から令和4年9月30日まで
に、寄付・寄贈・招待・ボランティア活動にご協力いただきました方々のご紹介をさせていただきます。紙面の都合上内容は省略させていただきます。(順不同・敬称略)

【個人】
福嶋俊郎 矢守信昭 小田義信 鶴木悠紀子
長島晴美 石井祐治 三浦和人 伊藤富雄
松山信 森政樹 松永勲 谷川修 紙屋裕安
石橋栄子 今南順子 山見由紀子 青木美香
山口ミツノ 久野すみ子 佐々木佳代子
半場美希 小椋寿男 三浦修一 クリシュナン
早川富雄 深谷まみ 村瀬光行 近藤朋美
一杉治夫 折原利佳 下村恵美子 土居万里子
松田ひとみ 田中尚己 矢内麻耶子 山口和子
金田和久 大前浩美 丹羽博久 山下隆一
加藤幸男 杵名章 高杉晋一 崎山智子
谷本美枝子 古泉桂 志賀敬夫 瀬川卓也
山口祐司 山下達也 川端定雄 佐藤孝介

鎌田祐帆 門司一徹 新宅加奈子 早川武
島津奈々 安部亜美 川村朋子 浦野沙織
柳谷真智子 本田光 柴橋佳幸 平岩丈彦
赤座薫 梶野弘久 富大輔 伊藤吟子 匿名

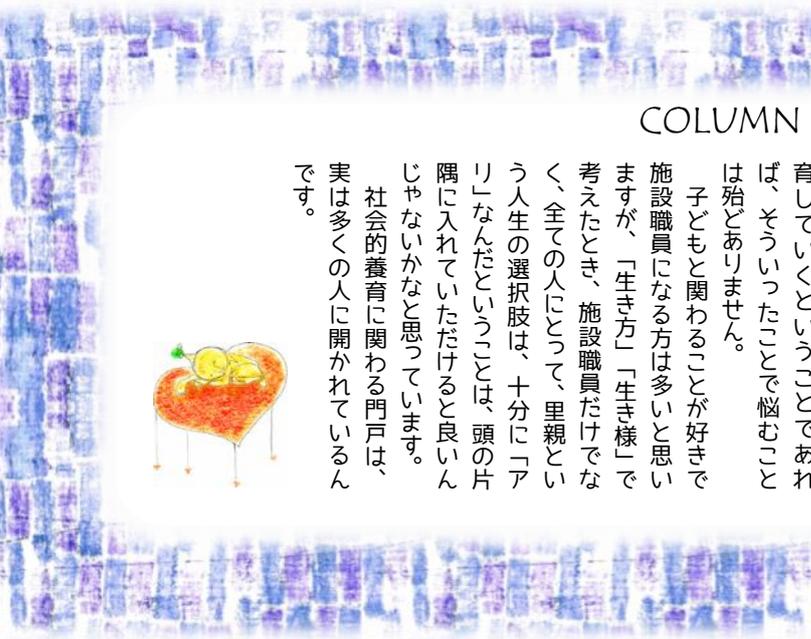
【団体】
Daska & Desiree 鳴海教会教会学校
コカ・コーラボトラーズジャパン 名古屋食糧
NFMビジネスソリューションズ オフィステラ
豊明損保センター 名古屋名南ライオンズ
トヨタホーム愛知 デリカまつり寿司 nino
コストコホーム 名南ロージャパン 中部倉庫店
フードバンク愛知 セールショップターリー 鮎一
アルパ・ドルルチュ・エ・カフェ・ウニコル
名古屋市文化振興事業部事業推進課 JA愛知
TheMusic Restaurant アットレックス 包む
ヒルズウォーク 徳重ガーデンズ店 柘本農園
制服のイトウ チュチュアンナ1%クラブ
食卓クラブ 井上紙店 ワイグループ 五条荘
ワイドワン ウウシン FJ DESIGN PLUS
小麦の奴隷名古屋鳴海店 中部トパーハン会
平成観光 KEIZ 大高店 グループエスカラデー

セブンイレブン名古屋鹿山2丁目店 鶏工房
名古屋ダイヤモンドドルフィンズ 日本郵便
セブンイレブンジャパン 親切会中部支部
ポツカサツポロフード&ビバレッジ 名古屋商會
全国食支援活動協会 山銀ぶどう園 名古屋市
キョーワ薬局 西日本電信電話 中部善意銀行
名古屋市立大学 名古屋キワニスクラブ
資生堂社会福祉事業財団日産芳連 シュリンプ
おはなしキャラバンつばき トヨタシステムズ
中日ドラゴンズ(立浪和義監督) 中日本興行
中日新聞社会事業団 パッションリーダーズ
NAGOYABranch 名古屋文化振興事業団
レゴランドジャパンプリンズ ユーリカ基金
名古屋ワイメンクラブ 名古屋トヨペット
パームタウン大高 大和証券名古屋支店
ジャパンフォレスト 豊明損保センター
大高民生委員児童委員協議会 鳴海教会教会学校
マスターマインドコンサルテイング ニックセツ
東海アイスクリーム協会 パンクフォースマイル
フアーストリートリング 福嶋ファミリー内科
矢守こどもクリニック 名古屋銀行法人営業部
霊友会ありがとうこたま基金 木下サーカス
中央有鄰学院ひとりごとを支える会

★福祉サービスの事業者は、利用者からの苦情の適切な解決に努めることになつています。中央有鄰学院では、左記の通り苦情解決責任者と受付担当者を設けております。

- ・ ゆつりん (小規模含む)
苦情解決責任者 小尾
受付担当者 三宅・藤崎
- ・ ほだか
苦情解決責任者 北根
受付担当者 山本
- ・ きょうわ
苦情解決責任者 竹内
受付担当者 西尾
- ・ ふれあいセンターおおたか
苦情受付責任者 北根
受付担当者 丹羽
- ・ ヘルパーステーションゆうりん
苦情受付責任者 児玉
受付担当者 若菜

〈第三者委員〉
多田元(弁護士)
杉浦利江(ファミリーホーム)
大塚さと子(大学准教授)



COLUMN

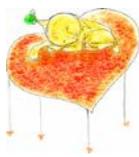
乳児院や児童養護施設というのは、子どもたちにとっては、家であり生活の場ですが、大人にとっては、職場であり、組織の一員でもあるので、やりきれない想いをすることも多いのです。

「私はいいと思っていらっしゃるけど、上からダメって言われているから」とは、なかなか言えません。これは、施設で子どもを養育する上での悩みや苦しみのひとつであると思います。

一方、里親として子どもを養育していくということであれば、そういったことで悩むことは殆どありません。

子どもと関わるのが好きで施設職員になる方は多いと思いますが、「生き方」「生き様」で考えたとき、施設職員だけでなく、全ての人のために、里親という人生の選択肢は、十分に「アリ」なんだというところは、頭の片隅に入れていただけたらいいんじゃないかなと思います。

社会的養育に関わる門戸は、実は多くの人に開かれています。



※令和4年度のフェスティバルは中止となりました。